

安全教育



第46号

令和7年
2月25日発行
発行責任者
横田 竜一

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831
メールアドレス:info@anshinkai.or.jp ホームページ:https://anshinkai.or.jp/

令和7年度からの事業の見直しについて

理事長 横田 竜一

本年度も横浜市安全教育振興会(安振会)の諸事業にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。令和7年度からの事業の見直しについて会員の皆様にお知らせいたします。

安振会は、平成26年度から一般財団法人となりました。それに伴い、法人内部に保有した財産(公益目的財産額相当額)を公益目的事業で使い切るようになりました。そこで、団体助成事業と修学奨励金給付事業の二つを公益目的事業とし、令和6年度までの11年間で終了する計画を立て、公益目的事業を進めてきました。

コロナ禍で、計画通り進まない時期があったため、令和6年度末での終了は難しくなりましたが、令和7年度中には、公益目的財産がなくなることは確実で、財源がなくなれば団体助成事業と修学奨励金給付事業の継続は不可能になってしまいます。

以前から、このことは会報やホームページの巻頭言などでお知らせしてきました。

しかし、団体助成事業(単位PTA事業助成・区部会PTA事業助成・青少年育成団体事業助成)、修学奨励金給付事業は、これまで一定の役割を果たすとともに、会員の皆様からのニーズもある事業であったため、「財源がなくなれば、即終了というわけにはいかないのではないか」「何とか、これらの事業を残していくことはできないのだろうか」と事業の見直しをしてきました。

財源確保のため、会費の値上げも選択肢の一つであることも検討しましたが、様々なものが値上がりをしている中、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という安振会発足当



時の理念に照らし、より多くの皆様にご加入していただくことが何より重要であると考えました。

そこで、令和7年度以降も会費は据え置きます。そして、もうすでにお知らせしていますが、令和6年度をもって停止する賠償責任保証制度の事業費を他の事業に振り分け、安振会発足時から中核の事業であった、見舞金給付事業、安全普及啓発活動(防災安全教室・救命救急法教室)、供花料等給付事業は今までと同じ事業規模・内容を維持し、団体助成事業、修学奨励金給付事業については、規模を縮小(50%減)しても、事業の継続を図りたいと考えています。

最終的な決定は3月の理事会・評議員会となりますが、会員の皆様には、少しでも早くと情報提供させていただきました。

今後もPTA活動、学校現場を応援して参ります。そして児童・生徒の健全育成、安心・安全を守り抜くための安振会事業をよりよい形で継続できるよう努めます。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



生徒が主体的に考え、 健康の保持増進と生活習慣の向上を目指す



1 はじめに

本校は平成23年に横浜市で147番目の市立中学校として開校しました。開校前から地域や保護者の多大なご支援、ご協力をいただきながら「地域とともに歩む学校づくり」を進めてきました。

また、学校教育目標を「自ら進んで、学ぶ、鍛える、共に生きる」とし、在校生は今までの先輩たちがそうであったように学業と部活動を両立させ、学校行事などにもとても熱心に取り組んでいます。木を多用した校舎や大きな体育館、横浜市立小中学校では初の全天候型プールなども備えた造りの中で生徒たちは伸び伸びと活動しています。

2 健康課題と活動のねらい

そのような環境の中、本校では、生徒が生涯にわたり健康を維持し、よりよい豊かな生活を送れるようになるために、学校保健活動を推進し、生徒が健康で安全な生活を送れるよう健全育成に努めています。

その一環として、生徒が主体的に健康に関するテーマを決め、調査・研究・発表をする取組を行い、「衛生や健康、食事についての自己管理能力を高め、生徒の健康の保持増進と生活習慣を向上させること」を目指しています。この取組は本校の中期学校経営方針の重点取組分野の教育実践の一つとしても位置付けています。



本校は塾や習い事に通っている生徒が多く、保健室に来室する生徒は睡眠不足であることが多いことが

分かりました。また、虫歯のある生徒が全校生徒の12%も占め、横浜市の平均8.5%を上回っていたことも令和5年度の調査で分かりました。これらのことを受け、昨年度から本校では「睡眠」と「口腔内の健康」を健康課題として設定し、その課題解決を通して、健康についての自己管理能力を高めることとしました。

3 「睡眠」に関する取組

令和5年度に「生活習慣を整える睡眠について」をテーマに、東洋羽毛工業株式会社の「睡眠健康指導士」の方を講師としてお招きし、生徒会本部役員や保健委員会、部活動代表の生徒が参加し、学校保健委員会を開催しました。事前に取った「睡眠に関するアンケート」の結果から8時間以上の睡眠時間（中学生に必要な睡眠時間）がとれている生徒は半数以下であることや寝る前に電子機器に触れている生徒が8割もいることが分かりました。

あか中生の睡眠の課題・考察

課題

睡眠をあまりとれていない

考察

寝る前にスマホやゲーム、パソコン、TVを使う人が全体の約8割！

→スマホなどの使いすぎ

→寝付きが悪くなる

→眠りが浅くなる原因に！



〈あかね台中学校生徒の睡眠の課題・考察〉

講師の方からはプロスポーツ選手の睡眠時間を例にあげていただき、勉強や部活動のパフォーマンスをあげるためには、①睡眠時間を8時間以上とること、②スマホなどの電子機器の使用時間を1時間未満にすること、③朝ご飯を食べること、などが大切であることを教えていただきました。また、成績を上げたいと思っている生徒が多くいることもあり、「勉強をするために睡眠時間を削るのではなく、成

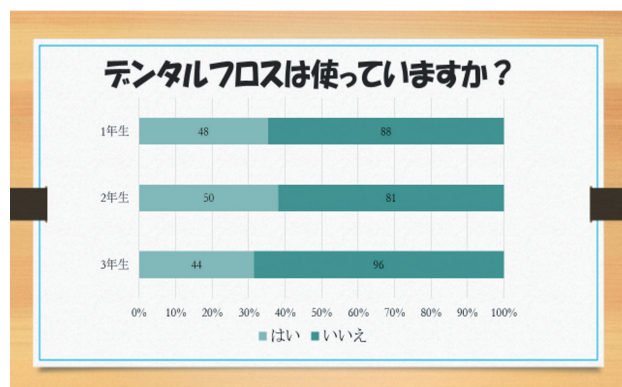
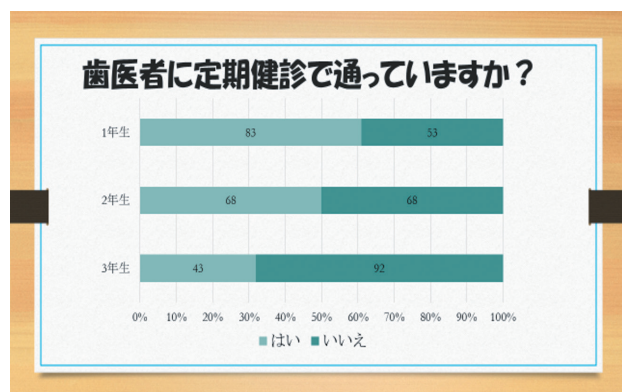
績を上げるためにも睡眠時間を確保する」という考え方も助言していただきました。

令和6年度になり、経過観察として再び全校生徒に「睡眠に関するアンケート」を実施してみたところ、調査回答は残念ながら改善しきれていない結果となりました。この結果や昨年度の学校保健委員会での講義が好評だったことを受けて、今年度は参加者を全校生徒に拡大し、再び東洋羽毛工業株式会社の講師の方を招き、全校生徒に向けて「睡眠について」の保健指導を行いました。引き続き、睡眠の大切さを伝え続け、生徒の自己管理能力の向上を目指したいと思います。

4 「口腔内の健康」に関する取組

令和5年度の調査で虫歯のある生徒が横浜市の平均を上回っていたため、令和6年度に再度、歯科検診の結果の分析と新たに「歯科に関するアンケート」を実施しました。

その結果、令和6年度は虫歯のある生徒は減少していたものの、歯医者に定期健診で通っている生徒は学年が上がるにつれて減少していること、デンタルフロスを使用している生徒はどの学年も4割以下であること、などの課題が見つかりました。



〈歯科に関するアンケート結果の一部〉

この調査結果を受け、令和6年度の学校保健委員会では「口腔内の健康を考える」をテーマに開催し、保健委員会の生徒が「歯科に関するアンケート」の結果の考察を行いました。また、自動販売機の飲み物に含まれる糖分とPH値を調査して、PH値が高い飲み物や糖分をとりすぎることのデメリットをまとめ、併せて発表を行いました。

この会の中で、歯科衛生士から虫歯と歯肉炎の予防法についての話があり、生徒は「虫歯と歯肉炎は生活習慣病であり、歯みがきだけでなく、よく噛むこと、早寝早起きすること、野菜を食べること、鼻呼吸をすることなどの生活習慣が虫歯や歯肉炎の予防に繋がること」を学びました。

なお、今回の学校保健委員会の様子を、保健委員の生徒が全校生徒にも知ってもらいたいとの思いで、その内容と学びについて壁新聞を作り校内に掲示したり、保健委員だよりを作成し全校に配布したりして紹介しました。



5 まとめと今後の課題

活動を通して、健康について「自分ごと」として考える生徒が増えてきました。いろいろな教えや学び、気づきがあり、「生涯にわたり健康を維持し、生活習慣を整えること」が「豊かな生活に結びつくこと」が分かってきたことによるものと思われます。

引き続き学校医や外部講師、保護者とも連携して養護教諭や保健安全指導部を中心に継続的な活動を行い、全校生徒や保護者、地域への情報発信にも力を入れ、様々な角度から生徒の「健康への自己管理能力」を高めていく活動を広げていきたいと考えています。そして、今後も全ての生徒が健康で安全な学校生活を送れるように全校体制で努めていきます。

〈調査研究委託事業〉

2024年度 横浜市PTA連絡協議会研修会

PTAにできること ～千葉県八街市での交通事故から考える～

講演：濱詰大介（八街市立朝陽小学校元PTA会長、千葉県PTA連絡協議会相談役）



2024年9月24日、横浜市民文化会館関内ホール大ホールにおいて、横浜市立小・中・高等学校及び特別支援学校の各PTA会員を対象とした研修会を開催しました。今年は講師として、千葉県八街市立朝陽小学校元PTA会長、千葉県PTA連絡協議会相談役の濱詰大介さんをお迎えしました。

冒頭、「結論から先に言ってしまいますが」と前置きした上で、昨今しばし話題となる、「PTAの存在意義」について言及。「PTAとは、もしもの時に、あるいは困った時に、みんなの助けになる組織であること。むしろそれだけでもよい位なんです。」という濱詰さん。もっとも、濱詰さんはPTA活動にかかわるようになった当初からそのように考えていたわけではなく、これは、できれば経験したくなかった出来事、即ち、令和3年6月にあった、通学路を下校中の朝陽小学校の児童複数名が大型トラックによる交通事故に巻き込まれ、死傷者が出てしまうという、痛ましい事故がきっかけだったという言葉に、会場の空気は一気に静まり返りました。

事故現場となった場所は、その5年前にも朝陽小学校の児童が大怪我をする交通事故が発生していた所。「またあの場所で事故が起きたらしい」、との電話が第一報だったことを濱詰さんは振り返りながら、PTA活動を通じて知り合いとなったご家庭のお子さんが巻き込まれてしまったことを知った時にどれほど驚き、心を痛めたか。そして、事故現場はどのような場所にあったのか、地図資料や写真を用いながら、子ども達が具体的にどのようなルートで下校していたのかを説明してくださいました。その話から、土地勘のない者でも、そこが見通しのよい直線道路でつい車のスピードが出してしまう場所だったこと、国道からの抜け道ともなる市道で、近くにアウトレットモールができたことなどから交通の流れが変わり、交通量に対する不安の声があがっていた場所だったことなど、具体的にイメージできたのではないのでしょうか。自分の子どもの通学路、あるいはその近くの場所に、似たような場所がないかをそれぞれ思い描くうえで、これらの資料は大変役に立つものでした。

朝陽小学校はいわゆる一小一中の地域にある学校で、その分PTA活動も小中一貫のような密な連携が取れているのだとか。濱詰さんは同校PTA会長として、PTA活動は誰かに言われたから行うものではなく、できるだけ自分たちで考えて動く、自主的な、そして楽しい活動を目指してこられたそうです。その中、このような事故が発生。当時はコロナ真っ最中で、人が集うこともままならない状態です。まさに緊急事態宣言が出ている最中だったそうです

が、「これ以上の緊急事態はない」と、集まれるメンバーで集い、何ができるか、手探りながらも形にして行った時の話を、順を追って説明してくださいました。警察署に要望書を出し、小中全家庭に子どもたちの意見も確認しながらアンケートをとったこと。その上で、保護者、教職員、そして子どもたちの総意をまとめた要望書、さらには請願書を八街市や議会に送ることになった経緯。PTAという組織が、いざという時にいかに保護者や教職員の思いを一つに団結し、そして今後の対策のためにスケールメリットを発揮できるか、試される時であったことが、手に取るように伝わってくるお話でした。

この時に作った、オリジナルの「のほり」を濱詰さんは今回のために持参してくださいました。のほりの「Thank you」「安全運転ありがとう」「safe drive」のメッセージ。「スピード落とせ」「飲酒運転するな」のような文言ではなく、何故この文言になったか。これも、この地域で働き、生活をする保護者同士で考えたからこそ出てきた文言だったそうです。今は八街市PTA連絡協議会、八街市教育委員会の賛同もあり、こののほりは市内の公共施設や小中学校でも配布され、啓蒙活動に役買っているそうです。

結果、事故現場には、それまでもPTAとして要望を出していたガードレールがついに取り付けられ、車の走行には多少不便になったとは言え、子ども達の安全は、その分、確実に守られることになりました。とは言え、この道のりは決して平坦ではなく、マスコミ対応もさることながら、「何より、心のケア」が必要だったと濱詰さんは振り返っていました。子ども達の心のケア。そして、大人達にとっても、この事故は受け入れがたいショックだったわけです。その分、直後の緊急保護者説明会では、参加した大人達が「なんとかしなくては」との思いを一つにする、ある意味決起集会のようだったとか。徐々に活動の輪も広がり、地域や行政、企業から協力の声があがり、子ども達の見守りは、まちぐるみでの活動になったそうです。

締めくくりに、濱詰さんが改めて参加者に投げかけた、PTAだけが正解ではないにせよ、その存在意義は、「もしもの時に、困った時に、みんなの助けになる組織」なのであり、日々のPTA活動は、万が一のことが起きた時に、立ち上がることができるための練習なのだという言葉は、強く心に残るメッセージだったと感じています。



（横浜市PTA連絡協議会 書記 玉川恵美子）



2024 野島クリスマスキャンプ★★★★★

クリスマスキャンプ実行委員会 代表 冢田三枝子

2024 野島クリスマスキャンプを、11月23日～24日に開催しました。参加してくださった子どもたち、保護者の方々、ボランティアのみなさんのたくさんの笑顔に包まれて、プログラムをすべて無事に終了することができました。コロナ感染症の影響から宿泊を伴う活動を見合わせていたため、今年は5年ぶりの一泊二日のクリスマスキャンプでした。また、宿泊を伴う活動としては、25回目の記念すべき会となりました。25回といえば四半世紀。これまで長く続いてこられたのは、横浜安全教育振興会様をはじめとして多くの方からの支援や協力、後援があつてのことだと思います。

今年のクリスマスキャンプには、募集人数を上回る方の申し込みがありました。「親子で参加ができる」ということに惹かれて参加されたご家族もいました。横浜高等教育専門学校の学生を中心にたくさんのボランティアが参加してくれました。クリスマスキャンプは、横浜市立小中学校個別支援学級に在籍する子どもたちに楽しい時間を過ごしてほしいという願いだけでなく、保護者の方たちへのサポートや若者の育成などもねらっています。そんな3つの願いも、しっかり達成できた時間になったのではないかと感じています。

保護者の方が、研修やゲームタイム、ケーキ作りなどを通し、仲良くなっていく姿は実行委員の励みともなりました。「子どもが活動している間に、親同士のお悩み相談もできてよかった」「子どもたち一人一人に専属のボランティアがついてくださり、程よい感じで子どもと別行動だったので、久々にリラックスできた二日間でした」などの感想もいただきました。子どもたちは、夕食までの間、野島研修センター1階の各部屋を宝島に見立てた宝さがしを楽しみました。宝物を探したり、隠したりする中で、グループのみんなと仲良くなっていきました。食後のクリスマスキャン

ドルは、マジックショーとアカペラコンサート。サンタクロースやトナカイも登場して、一足早いクリスマスモードを堪能しました。翌日、ボランティアと一緒につくったクリスマスリースは、きっとそれぞれのお家を飾っていることと思います。保護者の方が協力して作ってくれたケーキやボランティアが一生懸命につくったカードのプレゼントに、子どもたちの心もおなかも幸せで満たされていました。ボランティアからは、障害のある子どもたちだけでなく、夜の保護者との交流の機会を得られて、非常によい経験になったとの声が聞かれました。

通常の生活では交わらない人たちが織りなした二日間は、それぞれの心に大きな宝物を残してくれました。この活動を支えてくださった皆様に、改めて感謝いたします。

「初めて会った人とも活動を通じて仲良くなれてとても楽しかった。最初は緊張していたけれど、リーダーやボランティアの方が明るく優しく盛り上げてくれた、明るい気持ちで始めることができて嬉しかった。すべてが最高に楽しかった。来年もぜひ参加したい。」「子どもも親も新しい出会いができて、とてもよかったです。」「Thank you very much. It was great pleasure. It possible we plan to be there in 2025,too. Merry Christmas to all staff, contributors and volunteers.」「実行委員の方、ボランティアの方、協賛された団体の方のおかげで、とても濃い楽しい時間を過ごすことができました。大変だと思いますが、この活動がずっと続き、たくさんの方が笑顔になれる思い出と体験になることを願っています。来年お会いできるのを楽しみにしております。」

子どもたち、保護者の方の笑顔とメッセージに支えられて、2025へと歩みだします！応援してくださるみなさん、これからもよろしくお願いいたします。



神奈川新聞
2024. 12. 12

支援学級児童ら
1泊2日交流
横浜 野島研修センター
（同市金沢）でのほ
ど、市内小中学校の個別支
援学級に通う子どもが泊
まりがけで楽しみ、親睦を
深める「野島クリスマスキ
ャンプ2024」が開かれ
た。写真
主催は有志の実行委員

今年、小学5年・中学3年の
児童生徒生活体験の場を
提供するとともに、保護者
同士の交流やボランティア
の育成を図ると旨として
している、新型コロナウイルス
禍で2年連続で中止とな
っていたが、今年1泊2
日の活動再開した。
キャンプでは宝さがしなど
のゲーム、クリスマスリ
リースやケーキ作りなど
が盛りだくさん。締めく
まりでは参加者全員が
のびのびと笑顔で、親睦
の場を過ごした。
ボランティアで参加
した横浜高等教育専門学
校の学生は「教
員を目指す私たちがこ
れだけの経験を、保護者の方
との情報共有も貴重な場
だ」と話し、保護者「本
当に子どもたちにも、私
たちにもいい経験だった
」と感謝の面持ちだった。





公益財団法人よこはま学校食育財団 食育事業 親子料理教室



楽しく作って食への興味を深めよう！

親子料理教室は、子どもと大人が楽しく料理をしながら、食品や食生活に関心をもてるようになることを目的に行っています。子どもにとって身近な給食人気メニューや魚料理を取り上げ、食育講話の後に調理実習を行うスタイルをとっています。子どもの体格や調理経

験などを考慮して、長い間3年生以上を対象としてきましたが、要望に応じて2023年度からは1・2年生対象の簡単なおやつ作りの教室も開催しています。

会場借用や食育講師派遣、食品調達などについては、給食物資納入業者様の協力をお願いする教室もあります。

参加した子どもと保護者の感想を紹介

チリコンカーン作りに参加した子どもより

「大豆のよさを知らなかったけど、食育の話を聞いてわかりました。自分で作ったのでおいしかったです。」

ベ이스ターズ青星寮カレー作り参加した子どもより

「上手にできました。家の人に作ってあげたいです。」

おやつ作りに参加した保護者より

「久しぶりに子どもとゆっくり活動ができました。」「子どもが洗い物をはじめてやりました。楽しそうに、また、ていねいにできてよい経験になりました。」



2024年度活動報告(予定を含む)

給食人気メニュー チリコンカーンを作ろう

ひき肉、だいず、トマトなどの野菜を煮込みチリパウダーを入れた料理です。給食と同じ味に作れたと喜ぶ子どもたちを見かけました。(7月6日、11月16日実施)



給食のパンを作ろう

給食のパン工場の研修室を借用し、給食と同じ物資を使ってパン作りをしました。思い思いに形を作って楽しんでいました。(8月22・23日実施)



給食人気メニュー ベ이스ターズ青星寮カレーを作ろう

横浜ベ이스ターズの若手選手が生活する青星寮で提供されているものをアレンジした給食献立です。作り方を知ったかったという声が多くありました。(10月5日実施)



おやつを作ろう

黒みつかんとフルーツ白玉の2品を作りました。白玉だんごを捏ねるのに苦労していましたが、小さく丸める作業は楽しかったようです。(10月5日、11月16日実施)



魚をさばいて料理をしよう

横浜中央卸売市場の調理室を借用して、さばを三枚におろし、いわしを手開きした後料理を作ります。(2月8日実施予定)

茅ヶ崎東小学校

事業名：星空フェスティバル『体育館にプラネタリウムがやってくるよ!』

星空のオフィス CUE さんと伊藤尚未先生をお招きし、イベントを開催しました。

体育館にプラネタリウムドームを設置し、当日の学校上空の星空や星座の解説を聞き、親子で宇宙の魅力に触れる貴重な機会になりました。

また、紙コップ銀河とバルーンロケットの工作も行い、楽しく遊びながら学ぶ時間を過ごしました。茅ヶ崎東小では毎年、児童がわくわくするイベントをわくわく委員会で企画し、土日イベントに活動するサタデーキャスト委員会と協力して開催しています。今後も楽しいイベントを開催したいです。



上菅田特別支援学校 事業名：親子音楽鑑賞会

昨年10月に創立50周年記念式典にて親子音楽鑑賞会を企画しました。

横浜を中心に活動されている「NPO法人 ハマのJACK」さんより、ヴァイオリン、ドラム、ピアノ奏者の方にご来校いただきました。

曲目は世界各地の舞踏音楽が演奏され、児童生徒の皆さんは、様々なリズムに乗った素敵なメロディーに体を揺らしたり、笑顔で聞き入ったりして楽しんでいました。ラストの曲は「情熱大陸」。文字通りの情熱的な演奏に、大人も子どもも大いに盛り上がりました。



〈区・部会助成事業〉

港南区PTA連絡協議会 事業名：こうなんゆめワールド出店

港南区主催の『こうなんこどもゆめワールド』に子ども向けワークショップを出店しました。内容は、先端に雪だるまが付いたスティックに好きなカラーペンで色塗りをしてもらうというものです。また、中学生を対象にスタッフを募集し、社会経験が出来るようにしました。

小雨の降る中でのイベントでしたが、多くの子ども達が遊びに来てくれました。子ども達の笑顔が見れ、また他校の保護者とも交流を深められたので出店して良かったです。



第38回「健康と安全」ポスター展

- 展示会場：横浜市庁舎展示スペースB／安振会ホームページ上
- 展示期間：令和6年12月18日(水)～
(横浜市庁舎展示スペースB) 令和6年12月23日(月)まで
(安振会ホームページ) 令和7年1月17日(金)まで
- 応募点数：387点 ■ 受賞作品：特別賞14点／入選12点／佳作12点
- 審査委員：横浜市教育委員会 小中学校企画課指導主事 長谷川 聡 先生
横浜市小学校図画工作教育研究会会長 寺澤みゆき 先生 (横浜市立緑小学校長)
前・横浜市立中学校教育研究会美術科部会長 本江伊智郎 先生 (横浜市立潮田中学校主幹教諭)



特別賞受賞作品



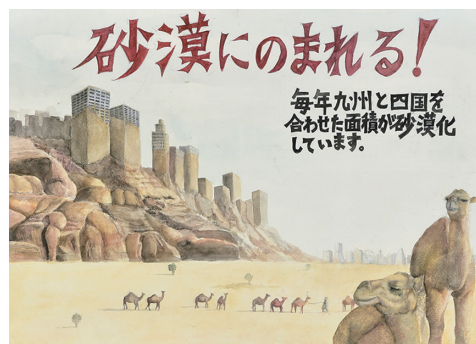
救おう 未来を
南神大寺小学校2年 坂口和香奈



取り戻そう 美しい海
仲尾台中学校3年 石井 心美



海を守るために自分たちが出来ること
西前小学校6年 石橋心愛



砂漠にのまれる!
笹下中学校3年 酒井 文



あなたの言葉 大丈夫?
能見台小学校6年 酒井結夢



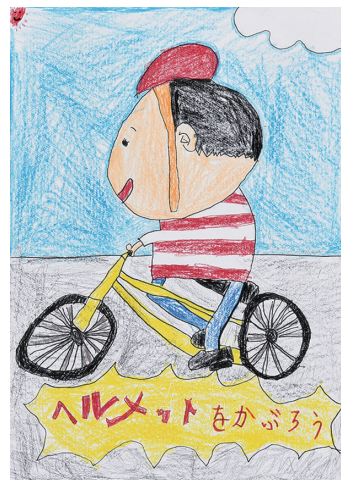
海の底まで守りたい
仲尾台中学校3年 高橋雲杞



すききらいしい!! 何でもモリモリ食べる!!
大曽根小学校2年 久保 結璃



よふかし してない?
汲沢中学校2年 近藤 志歩



ヘルメットをかぶろう
戸部小学校1年 名須川 柊稀



心も身体も健康に
永田中学校2年 葉山 好



考えて! 今できること
下末吉小学校4年 竹田 朔透



あなたのゴミを拾う誰かがいる
藤の木中学校2年 鈴木 真奈



毎日元気な「ただいま」を
戸部小学校4年 都築 葉子



海に流さずリサイクル
藤の木中学校1年 星原 葵

令和6年度 加入状況

校 種	賛助会員数	世 帯 数
小 学 校	333	133,093
中 学 校	131	64,135
高 等 学 校	5	4,193
特別支援学校	12	1,392
総 計	481	202,813

(小学校には、横浜国大附属横浜小が含まれる)

令和7年1月末現在

令和6年度 評議員名簿

氏 名	選 出 基 準
吉 備 カヨ	学識経験者(横浜市スポーツ協会副会長)
大 槻 繁美	学識経験者 ((公財)よこはまユース業務執行理事・事務局次長)
松 本 豊	学識経験者(横浜市子ども会連絡協議会会長)
荒 木 高司	学識経験者(神奈川県立高等学校安振会評議員)
森 長 秀彰	横浜市教育委員会代表(総務課長)
竹 山 昭子	横浜市立中学校長会 (総務・横浜市立日限山中学校長)
松 本 雅威	横浜市PTA連絡協議会(副会長)
宇 積 悠	横浜市PTA連絡協議会(会計)

令和6年度 理事・監事・審査委員 名簿

役 職 名	氏 名	選 出 基 準	
理 事 長	横 田 竜 一	学識経験者	○
副理事長	豊 田 則 夫	学識経験者	○
副理事長	竹 本 靖 代	学識経験者	○
専務理事	小 宮 寛 之	横浜市安全教育振興会 事務局長	○
常務理事	斎 藤 博 栄	学識経験者	○
理 事	鈴 木 秀 高	学識経験者	
理 事	生 田 麻 実	学識経験者	
理 事	海 上 良 太	学識経験者	
理 事	樋 口 眞 砂 子	学識経験者	
理 事	鈴 木 進	学識経験者	
理 事	菅 野 陽 子	学識経験者	
理 事	田 川 斉 史	横浜市立小学校長会(副会長)	○
理 事	高 橋 秀 吉	横浜市立中学校長会(副会長)	○
理 事	菊 本 純	横浜市立特別支援学校長会(会長)	
理 事	東 隆 幸	横浜市PTA連絡協議会(会長)	○
理 事	倉 根 美 帆	横浜市PTA連絡協議会(副会長)	○
理 事	犬 尾 陽 子	横浜市PTA連絡協議会(書記)	
監 事	江 口 和 良	横浜市立小学校長会(副会長)	
監 事	高 杉 陽 子	横浜市PTA連絡協議会(副会長)	

○印は審査委員兼務

審査委員	紺 野 勉	横浜市医師会推薦
審査委員	赤 羽 重 樹	横浜市医師会推薦
審査委員	神 保 裕 紀	横浜市歯科医師会推薦

令和6年度 上期 供花料等給付一覧表

令和6年4月1日～令和6年9月20日分 (単位 円)

給付別種・事由		対 象	給付件数	給 付 額
供花料等	(1)児童生徒供花料	児 童	4	120,000
		生 徒	5	150,000
		小学校	24	720,000
	(2)保護者供花料	中学校	27	810,000
		高校・特別支援	2	60,000
	(3)教職員供花料		1	30,000
	(4)証明書代等		21	45,450
合 計			84	1,935,450
費 目		件 数	金 額	
手数料等	(1) 振込手数料	82	34,925	
	(2) その他手数料	0	0	
合 計		82	34,925	
支 払 総 額			1,970,375	

令和6年度 上期 共済見舞金等給付一覧表

令和6年4月1日～令和6年9月20日分 (単位 円)

給付別種・事由		対 象	給付件数	給 付 額
1 幼児・児童・生徒に対する見舞金等	死亡弔慰金	幼児・児童	0	0
	①学校管理下外の事故	生 徒	0	0
	死亡弔慰金	幼児・児童	1	200,000
	②学校管理下外の交通事故死	生 徒	0	0
	死亡弔慰金	幼児・児童	0	0
	③登下校中の事故死（交通事故死を含む）	生 徒	1	100,000
	障害見舞金 （件数は負傷見舞金に含む）	幼児・児童	（ 1 ）	20,000
		生 徒	0	0
	負傷見舞金 （部活動中の傷害を除く）	幼児・児童	822	8,485,500
		生 徒	70	923,500
交通事故見舞金	幼児・児童	18	54,000	
	生 徒	5	15,000	
小 計			917	9,798,000
2 会員に対する見舞金等	死亡弔慰金		0	0
	① PTA 及び学校が主催又は共催する活動中の負傷による死亡		0	0
	死亡弔慰金		0	0
	② PTA 活動への往復途次の交通事故死		0	0
	死亡弔慰金		0	0
	③ PTA 活動中の突然死		0	0
	障害見舞金		0	0
	負傷見舞金		2	13,400
交通事故見舞金		0	0	
小 計			2	13,400
特別見舞金等 等に対する 3 ボランティア 学校支援	特別死亡弔慰金		0	0
	特別負傷見舞金		0	0
	特別交通事故見舞金		0	0
	小 計		0	0
合 計			919	9,811,400
証 明 書 代			853	1,623,514
給 付 総 額			919	11,434,914
項 目			件 数	金 額
手数料等	（１）振込手数料		712	221,210
	（２）その他手数料		0	0
合 計			712	221,210
支 払 総 額				11,656,124

令和6年度 上期 学校管理下見舞金給付一覧表

令和6年4月1日～令和6年9月7日分 (単位 円)

給付別種・事由		対 象	給付件数	給 付 額
1 生徒に対する見舞金	負傷見舞金	中学校	53	981,196
		高等学校	16	245,956
		特別支援学校	0	0
	合 計		69	1,227,152
費 目		件 数	金 額	
手数料等	(1) 振込手数料	45	15,235	
	(2) その他手数料	0	0	
合 計		45	15,235	
支 払 総 額			1,242,387	

令和6年度 安全教育推進団体に対する助成

申請のあった単位PTAに対する助成	1校4万円(上限) 232校	8,918,496
区・部会PTA講演会研修会等助成		1,767,500
横浜市PTA連絡協議会事業助成		3,000,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」		300,000
横浜市立中学校長会指導部・研修部		300,000
横浜市立特別支援学校長会「専門研究事業」		300,000
(一社)横浜すばいす「横浜の子どもが作る弁当コンクール」「はまみらいラボ」		300,000
第2回 横浜市小学校マーチングバンド交流会		300,000
横浜市立小学校 第5回 オリ・パラスポーツフェスティバル		300,000
第43回 横浜開港祭 応援救護ブース		300,000
(一社)横浜青年会議所「横浜こども屋台選手権」		200,000
第60回 関東甲越地区肢体不自由特別支援学校PTA連合・校長会合同研究協議会 神奈川大会		200,000
野島クリスマスキャンプ2024		200,000
第20回 学校給食展示会		200,000
ピンクシャツデー2025 in神奈川		150,000
ポッチャ体験学習支援事業		100,000
第41回 横浜港カッターレース		100,000
港南メディカルフェスティバル2024		100,000
よこはま学校食育財団「食育推進事業親子料理教室」		70,000

令和7年1月末現在

令和6年度 区・部会 PTA 助成申請一覧

区 名	開催日	事 業 名	会 場
神 奈 川	3月2日	「区P連の輪」春のホリデースクール ◇ 消防・防災体験会 ◇ 出張天井プラネタリウム ◇ 子ども大好き工作コーナー	子安小学校
南	11月11日	講演会「共に学ぶネット社会を生きる力」 講師 宮川 麻子	南区総合庁舎
	1月16日	研修会「校外委員会について」	
港 南	11月2日	こうなん子どもゆめワールド 2024 ◇ 子ども向けワークショップの出店	港南ふれあい公園
保 土 ケ 谷	2月25日	講演会「相手も自分も大切にするコミュニケーション」 講師 吉井 奈々	保土ヶ谷公会堂
旭	11月16日	講演会「好奇心のチカラ ～大人も育とう子どもとともに～」 講師 相川 七瀬	万騎が原中学校
栄	12月12日	講演会「ほめて育てる子どもの力」 講師 渡辺 洋之	栄公会堂
泉	11月9日	指導者研修会・全体会 講演会「続・戦わないコミュニケーション ～自分のパターンに気づいてますか?～」 講師 山崎 洋実	泉公会堂
高 校	6月29日	夏季講演会「やる気のメカニズムと質的向上の支援 ～子どものやる気を高めるメンタルトレーニング～」 講師 森下 健	関東学院大学 関内キャンパス
	11月22日	秋季講演会「もっと楽に生きるために必要なマインド」 講師 澤 円	南高等学校
特 別 支 援	9月18日	進路分科会 講演会「18歳以上で利用できる福祉サービス」 講師 渡邊 史郎	左近山特別支援学校
		広報分科会「視線入力体験会」	東俣野特別支援学校
		広報誌「とくしぶかい」発行	

令和6年度 修学奨励金の給付

小学校	154人	30,000	4,620,000
中学校	130人	40,000	5,200,000
高等学校	20人	60,000	1,200,000
特別支援学校	24人	40,000	960,000
計	328人		11,980,000

令和6年12月末現在

令和6年度 賠償事故状況

申 請 数	61件
対象事故件数	15件
校 種 別	小学校 8件 中学校 7件

※高等学校、特別支援学校は申請ナシ

令和6年12月末現在

安振会 年間事業

安全教室の開催

*救命救急法教室

日本赤十字社指導員による
AEDを用いた応急手当等



*防災安全教室

横浜市民防災センターにて、
センター職員による講話や減
災トレーニング・地震シミュ
レーター・災害シアター等の
体験ツアー



「健康と安全」ポスター展の開催



横浜市庁舎アトリウムにて
展示、表彰式を行いました。

